

令和5年度第1回愛媛県宇摩構想区域地域医療構想調整会議
議事録

1 日時：令和5年9月5日（火）19：00～20：50

2 場所：四国中央市福祉会館4階多目的ホール

3 出席者：委員13名（随行4名）

県地域医療構想アドバイザー1名

オブザーバー2名（医療対策課1名、県立病院課1名）

事務局（保健所）6名

傍聴者3名

報道機関1名

4 次第

1) 講演（公開）「国保データベースを用いた医療提供体制の分析について」

講師 株式会社日本経営 ヘルスケア事業部 部長 角谷 哲
緊急性が高い頭や心臓は、圏域内での対応されている。特に脳血管疾患についての対応力は素晴らしい。

ただし、心血管疾患は、非常にレベルが高い手術も圏域内でされている様子はあるが、圏域外へ分散している。理由として、医師不足で全件対応できないという話なのかどうなのかというところは、実際に担当されている病院さんのご意見をしっかり聞くべき。

現状でも地域完結と広域連携、特に広域連携については術後の受入れる連携体制はととてもすぐれているが、マンパワー的に盤石ではありませんのでその点は議論が必要。

今後の課題としては、働き手の減少は間違いないので、これから議論すべきことというところと規模の拡大とか機能の分散ではなくて、集約と連携による効率性の向上という枠組みで考えていかなければならない。併せて、宇摩圏域については、隣接医療圏や広域連携というところも踏まえながら、より一層の役割分担と集中並びに連携ということが必要になってくる。

2) 報告（公開）第8次愛媛県地域保健医療計画の策定について

（県医療対策課 大西係長）

今年度中に、令和6年～11年度の第8次計画を策定する。

第8次医療計画は、新たに新興感染症が6事業目として追加される。

第7次計画を基本としつつ、今後の作業部会等の意向を踏まえてそれぞれ検討していく。

また、特に在宅医療と介護計画の整合性を確保することから、厚生労働省の患者調査に基づき按分していることから、在宅医療と介護施設の割合を「1：3.5」としたいと考えている。

3) 報告（公開）令和4年度病床機能報告について

（四国中央保健所企画課 奥田担当係長）

2022年病床機能報告と2025年必要病床数を比較すると、高度急性期が33床不足、急性期が102床過剰、回復期が220床不足、慢性期が142床過剰、休棟が100床。高度急性期と回復期が不足している状況であるが、2014年から、年々、2025年必要病床数に収れんしている。

豊岡台病院が本年度、34床休棟中である療養病床を介護医療院へ転換したい旨の報告があった。

4) 報告（公開）病床機能に係る対応方針の検証などについて

（県医療対策課大西係長）

令和7年の宇摩地域の予定病床数は、総病床数が必要病床数と同水準まで減少するとともに、急性期病床が減少している。令和7年の必要病床数との乖離は残っているが、急性期が減少する形になっており、地域医療構想に沿ったものになっている。

各医療機関を尊重し、グラフに示した「令和7年予定病床数」を、構想区域ごとの令和7年に向けた対応方針として厚生労働省に報告したい。

5) 報告（非公開）新中核病院建設状況について（四国中央病院 北川院長）

6) 協議（非公開）地域医療介護総合確保基金について

（四国中央保健所企画課奥田担当係長）

7) 協議（非公開）病床機能再生事業補助金事業について（HITO病院 田中院長）

8) 協議（非公開）外来機能報告について（四国中央保健所企画課奥田担当係長）